



リステラス星圏史略
古資料ファイル
4 - 0 - X



— 苛怨樹魂 —
《灰色姫》 と
戦士 《黒百合》

(発掘整理中)

霧樹里守 & 土岐真扉

(新設定@女神たちの転生課題)

(新設定@女神たちの転生課題)

一 苛怨樹魂 一 (2017年8月10日)

<http://85358.diarynote.jp/201708100628041533/>

一 苛怨樹魂 一

2017年8月10日 [リステラス星圏史略](#) (創作)

メモのみ。

『灰色姫』のエピソード

ようやく鮮明に視えてきた... (^ ^ ;) ...。

くろいわ〜...★

てことでずっと決まらなかった「邪魔」樹⇒『一 苛怨樹魂 一』に仮訂正。

詳細いずれ。

(2018年2月5日) 間違いなく呪怨樹も灰色姫も私だ...w (ーー;) w

<http://85358.diarynote.jp/201802060518069979/>

(苦勞する意味なんか無いのに！) (日付 修正)

2018年2月5日 リステラス星圏史略 (創作)
(承前)

どうせアルマンディン神兄様が私の転生に介入している以上、

何度生まれ変わったって、幸せと逆方向に無理やり押し流されるんだ...

。。。 (〃_〃)||||...。

たましい粉碎したら (無に還ったら)

また、ダメですか...？

(苦勞する意味なんか無いのに！)

2月5日の日記

全員さっさと死ねばいい。

滅ぼせ。こんな世界は。

(要らない。)

2月5日の日記

あ”～(-“;))

間違いなく呪怨樹も灰色姫も私だ... (‘～`;))

w

ってことは、あの『王様』が
アルマンディン兄様かぁ...

(へ)

https://www.youtube.com/watch?v=KsUu_kUqCg0

志方あきこ (Shikata Akiko) - 花帰葬

『物語』として嗟い飛ばせる状態になるまでは、まだ当分かかりそうですね...★
(2018年2月6日)

<http://85358.diarynote.jp/201802060532263890/>

『物語』として嗟い飛ばせる状態になるまでは、まだ当分かかり
そうですね...★

2018年2月6日 [リステラス星圏史略](#) (創作) コメント (1)

https://www.youtube.com/watch?v=KsUu_kUqCg0

志方あきこ (Shikata Akiko) - 花帰葬

おはようございます。5 : 24 になっちゃいました。
定刻4時発進。家事やってたら予定を超過しました。

前項参照。精神状態は非常にすさんだまま継続してます。

疑似的な絶望。

(※ほんとに「絶望」してたらこんなもん書く余裕もナイ。)(^^;)

てことで一気に、

今までは「エルさんビジョン」で、

例によって「都合の悪いところは説明しない」情報量しかなかった

『灰色姫』のエピソードというか「状況」が、

「りある？自分記憶」としてどかっと脳内展開... (一一;) ...。

しかしながら、

「うちの一族皆殺しにしてムリヤリ巫女姫（私）を掠奪した王」が
「アルマンディン兄様」だった...という裏設定？を増設するのはいいけど、

まだ、

「じゃー黒百合は何にどう関わっていて、」

「逃げながら追う」事態に展開したのか？

...の、部分が、まだ全く視えてません...w（^^；）w....

『物語』として嗤い飛ばせる状態になるまでは、まだ当分かかりそうですね...★

（それにつけても！なんって面倒臭い、絡まりまくった、

ややこしい伏線だらけの！物語...！）

（しかも、「自分史」...⇒★w（～”～＃）w...★）

<https://www.youtube.com/watch?v=-Hn5fcdz1-l>

たった1つの想い -KOKIA Tatta Hitotsuno Omoi

コメント



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2018年2月6日5:36

...あ”～★そして★

(ー；)

「私」の、なかば本能というか条件反射と化した「反権力」という「衝動」が...

「アルマンディン神兄の虐待？への反発」心からきている。(ー；)

という、しょーもないルーツも判明...

ほんとに、とにかく。

エルさんとアルマンディン兄様がよけーな介入をしていなければ... (ー；) ...

この「宇宙史」は...ずいぶん。

「違う話」になっていた。はず？

なんですけど...ねえ...★w (ー#) w...

(2019年08月13日) 第一夜 「 灰色姫の物語 」 (第一稿) (というか草稿?)

<https://85358.diarynote.jp/201908132350289874/>

『 苛怨呪の物語 』 (仮題) 第一夜 「 灰色姫の物語 」
(第一稿) (というか草稿?) (一旦終)

2019年8月13日 [リステラス星圏史略 \(創作\) コメント \(2\)](#)

↑

※項目 (【リステラス星圏史略 (創作)】の【1616】件) 目! ☆

<https://85358.diarynote.jp/201908122028274221/>

の続き....

=====

◆登場人物◆

サワラソウエン (灰色姫) : 灰色王国の養女姫。元・巫女長候補。

アミルディソレルダス姫 : 王家に生まれた巫女姫。(なかのひとエルさん)

アジャルディーン : 灰色姫の夫。王婿。

ソルダス : 灰色姫の片恋相手。王宮衛視長。(身分は低い)。

タエラ : サワラソウエンとアジャルディーンの実子。そうとは知らずにソルダスが世話をする。

ドレドラウド : 新興国の狂帝。

=====

夢を視ていた。

深い深い、魂の奥のおくの底のそのの、澱のしたの淀みのさらにおくの

深い深い、ところの、いやな...

記憶の夢だ。

いつもの夢だ。

いや、そうだっただろうか？

一瞬だけ、いまの理性がちらりと目覚めておもう。

自分は、夢などいままで、視たことがあったのだろうか？

夢だ....。

灰色、の。



その惑星（ほし）の空は長らく一面の灰色であった。

それゆえに灰色は尊い色であった。

神聖なる巫女らのまとう衣もまた一面の灰色と定められ、

灰色の髪をもち生まれついた赤子らは

すべて神殿へと納められるしきたりであった。

サワラソウエンは貧しい家に生まれた。

貧しいみじめな辺境の寒村の、

風が吹けば屋根が飛ぶような、

貧しく賤しい小屋かけの、

村はずれの海べりで、

やはり貧しくて貧しくて定まった妻を得ることも叶わぬ

貧しい日雇いの魚獲りたちの
そのまた下働きを相手に、
春をひさぐ醜く瘠せたはしための腹から生まれた、
父無しの子であった。

しかしサワラソウエンは美しい、それはそれは美しい、花のかんばせと、
それ以上に尊貴とされる、灰色の長い長い、渦巻く髪をもって生まれた。
生まれながらに気高い心根と、
誰に教わったわけでもない、
真の叡智を持っていた。

その噂は辺境を超え、街邑を超え、遠く遠く、小路国の王宮にまで届いた。
王は評判を聴きたいそう喜び、幼い少女の成人の年である八歳の誕生月に、
はるばる王宮より、迎えをつかわした。

貧しく醜く年老いた実の母に、否やはなかった。
喜びと名誉に哭きむせび、下賜された多くの宝物と引き換えに、
慶んで、実の娘をさしだした。

サワラソウエンに断る自由はなかった。
ただ、幼馴染の友やら親戚やらの幾たりかを、
供に連れ、王宮での士官の道をと、
控えめに望んだだけだった。

サワラソウエンは美しかった。
王宮へ至る輿入れの行列を
沿道の人々は、みな喜悅して涙しながら、
ふし拝み、祝福を願った。
女神と呼ばれ灰色姫と称えられ、
少女は王宮へと至った。

美しい巫女姫をひとめ観るなり、
年老いた王は狂喜して、わが閨へと望んだ。
長らく空位であった正王妃の地位を与えようぞと。

王の唯一の血縁にして後継姫たる
巫女長アミルディソレルダス姫が、

鋭くそれを拒んだ。

すべての灰色の髪のは娘は
神殿に、収めるが王の務めと。

老王は嘆き哀しみ秘かに犯し穢そうと試みたが、
毒牙は巫女長によってからくも防がれた。
灰色姫は王宮奥深い正神殿に納められ、心静かに、
日々に夜々に、その先視と神語るちからを磨いた。

穏やかな、日々であった。
ただ、故郷より伴いし幼馴染の、
兄とも慕い育った少年ソルダスが、
衛視として王宮によく仕え、手柄をとりたてられて、
衛視長の娘を娶ったと。

風の報せを耳にして、密かに涙を流したほかは。

歳月が流れ、老王は死病の床に伏した。
後継王婿として、隣国の王アジャルディーンが名乗りをあげた。
後継巫女姫を妃にもらい受けよう。
ふたつの王国をひとつにまとめ、
共に栄えるよう、自分が盛り立てようと。

巫女長姫の退位還俗のあとめは仙才優れた灰色姫よと、
民のすべては悦び望んだ。
しかしアミルディソレルダス姫は
サワラソウエンに命じた。
私の代わりに巫女職を返上し、
老王の養女となり、アジャルディーンの子を産めと。

サワラソウエンに断る自由はなかった。
秘かに嗚咽の涙を噛み殺しながら、
養女の儀式で王に穢され、
花嫁の新床にて、
王婿に犯された。

泣きながら孕み、
泣きながら子を産んだ。
生まれた赤子は娘であった。
王家の生まれの灰色の娘であった。

アジャルディーンは舌打ちした。
本国にすでに愛妃と愛児はあった。
あとめ争いの面倒などごめんだと、
赤子は奪い去られて乳母の子に。
民には死産と告げられた。

サワラソウエンは涙した。
ひそかに嗚咽し涙した。
二度とはよけいに孕まぬようにと
腹を裂かれて、縫われた傷に。



灰色姫の美貌と才知は、
アジャルディーンも気に入っていた。
あまたの妾をはべらせながらも
気まぐれに、
姫をも犯して、もて遊ぶ。

サワラソウエンは涙した。
ひそかに隠れて嗚咽した。

やがて気がつく。あの乳母は、
恋しきソルダスの、妻であったと。
兄とも慕った恋しき男が
それとは知らぬが我が娘の
優しく頼もしき養父であると。

灰色髪の、灰色瞳。
おさなきタエラの成長を

かくれて見守る。

それだけが幸福の日々。



やがて小路国に狂帝が朝貢を迫り来た。
海より獲れる、尊い真珠を小山ほど。
それにもまして、尊い巫女姫たちをと。

アミルディソレルダス姫は、激しく拒んだ。
アジャルディーンは我が妻を呼びつけた。

おまえを贄として差し出す。
狂帝の慰みものに、なれと。

サワラソウエンに拒む自由はなかった。
ただ、同じ色の髪の子かな娘、
タエラだけは狂帝に差し出さずにいてくれと、
泣いて頼んだ。
伏して頼んだ。
しかしアミルディソレルダス姫とアジャルディーン。
王家の二人は冷たく拒んだ。

灰色の髪の子たち、
少なくとも二人は差し出さなければと。



このうえは。
せめて狂帝の寵をじぶんがとりむすび、
幼い娘の身だけは護ろうと
サワラソウエンは美しく身支度をする。

輝くばかりの花のかんばせ
輝くばかりの灰銀色の髪。

沿道の人びとは輿入れの姫を伏し拝む。
現世の女神と、涙して伏し拝む。

サワラソウエンはその皆々の前で狂帝に穢される。
けだもののように穢される。
悪夢のように穢される。

そして。

じぶんはどんなことでもする幼きタエラだけは見逃してと
哀願し、翫られ。

とことん、翫られ。

その、屈辱の、時。

ソルダスが。

わが養女を返せと。

わが娘を返せ、われらが故郷を、自由を返せと。

志願の兵を連れ、警護の敵兵の隙をついて...
迫り来た。

嗤いながら灰色姫を犯す将を狂帝とおもいこみ
刀をふるいその首を、姫を犯すからだの上から切り離し。
そして。

ばかめと狂帝は嘲笑い、ほんの一瞬で、
ソルダスの命が、

消えた。

タエラは犯された。
泣き叫びながら犯され、
五月蠅いと翫り殺された。

サワラソウエンは。

持てる聖なるちから、すべての邪なる呪のちから、すべて。

慟哭の叫びのうちに解き放ち。

そして...

星は、滅びた。



...は！

と、跳び起きた。

心臓が、早鐘のようだった。

恐怖と絶望に...

身が、すくんだ。

「...おや、起きたのか？ 久しぶりだね、ソレル。」

目を覚ますと、ベッドサイドには人がいた。

逢いたかった、あの人ではない。

見慣れた、人だ。

「...ディアン...」

しばしば「女史」とも呼ばれる世に高名なマリア＝ソレル博士は、同じマリア姓を名乗る一族のなかでは地球人風のあだ名「ドクター」で呼ばれる、色違いの遺伝子を持って生まれた従姉妹の名を、億劫げに...呼んだ。

コメント



[霧木里守⇨畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2019年8月14日0:36

0 6 6

8

3 4 4 ☆

予定時間大幅オーバー！

本日これまで！



[霧木里守⇨畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2019年8月14日0:38

んで。(^^;)

ぶっつけで書きながら（ほぼ「自動書記」状態）

「へ～★ 細部って、こういう話だったんだー。

思ってたのと、ちょっと違うな～w」

とか、言ってる本人...★

《大地世界》物語

～ 皇女戦記編～

《灰色姫》と戦士《黒百合》

※ いにしえの世の物語 ※

(草稿 & 没原稿)

(草稿 & 没原稿)

2006年7月22日 [連載 \(2周目・大地世界物語\)](#)

3/23

- いきなり大長編にとりかかろうなんて大それたことは考えずに、8~16枚ぐらいずつにエピソードをまとめて行くこと。

- 第一話 虹の女神
- 第二話 目覚めの悪夢

3/24

- 「愛している人に対する負い目を告白するのは辛い事でしょう？
わたしは何も聞きません。」

雄輝たちに地球へ帰る方法を教えられなかった経験のある
マーシャは、苦しさを慮ばかりあまり本当の思いやりのなんたるかを見誤まり、告白することによって罪から解放されたいと望んでいた、かつての皇女の従者 黒ゆりは、永い間 長寿人となっ
てさすらいことになり、後、鋭に告白することによって
解き放たれる。

彼（か）の昔

哀しみの姫て心侍女なる娘の

皇女（おうじょ）に問ひける。

「国がため

未だ見ざる男（ひと）に嫁ぐ。

これ幸福（しあわせ）であられるや」

皇女答ふること能はざりき。

序章

一、——語り部の口承より——

その昔、危機皇治世の時代58年、第一皇子マリシアル様御成人と第二皇女マーライシャ様“学び始め”のお式がちょうど重なった年のこと、一人の娘御が皇女付きの侍女として“麗しの白き都（ルワ・マルライン）”のお城に上がられました。

そのお方は実はアーシュラ・グイドと申される、帰化地球人（ティクト）自治領のとある大国の姫宮であられましたが、皆にはそれを伏せてただ“哀しみの姫”とだけ呼ばれておりました。

さて、折しも始まった大異変のために、長い平和の時代を裂いて諸侯会議が開かれたのは、丁度この年の事でございます。

御存知の通り大異変の原因は母なる大地の女神よりの急を告げる警告。

諸侯会議の際に遂に明らかにされたその内容が実に恐ろしいものでありました事は、今更申すまでもございません。

その危機に立ち向かうためには、長い間二つに割れて戦争（いくさあらそい）の原因にさえなってきた高貴な血筋を今こそ一つに戻し、全ての確執を取り払って大地の国（ダレムアス）全体を一つに統べる事のできる皇を誕生させなければならない。

その場に集った皇と王たちとがそう断を下した時が、全ての物語のそもそもの始まりでありました。

この時を境に、大地は大いなる歴史の流れの上を巡り始めたのでございます。

(※「コクヨ ケー10 20×20」原稿用紙にシャープペン書き。)

コメント



りす

2007年6月12日0:15

(^◇^;)

『源氏物語』と『古事記』と『万葉集』、特に額田皇女のエピソードの影響下にあった時期だというのが、もろばれです……☆ そしてもちろん『指輪物語』も……☆☆(^◇^;)”☆☆



りす

2007年6月12日0:19

あ、あと、『和宮様御留（かずのみやさまおとめ）』（※江戸時代末期の大政奉還とかの頃の「皇女降嫁」の話……☆）も、この頃に読んでたんだっけ？ (^◇^;)

そしてもちろん、このほぼ同時期に、かの、

「きみしにたまうことなかれ、

すめらみことはたたかいに、

おおみずからはいでまさね」……に、ハマる☆(^◇^;)★

(だからうちとこの「皇女」は、自ら戦地に立つのよ!!)

||||(^◇^);||||”

(設定資料)

(設定資料)

(地球で言えば12歳ぐらいで皇女のおつきで西方(モルナス)行きに加わった黒百合)
(中学...??)

(地球で言えば12歳ぐらいで皇女のおつきで西方(モルナス)行きに加わった黒百合) (中学...??)

2016年8月11日 リステラス星圏史略 (創作)

◎ 地球で言えば、12歳ぐらいで、皇女のおつきで西方(モルナス)行きに加わった黒百合は、皇女に対する同情から、後先考えずに皇女をつれて逃げだした。

途中、見つかって追いかけてきた兵二人を無我夢中で殺し、村の魔法使いを脅して、通路を開く、という分不相応なまねをさせて殺し、ために黒百合の本名は、大地の国(ダレムアス)では忌むべきものとされて埋められている。

地球に着いたマーシャは、大地の国(ダレムアス)へ帰ろうとして黒百合のそばから逃げだし、ダレムアスへ帰る方法を捜しながら放浪しているうちに、かえってボルドム軍の手先に見つかり、不意にとびだしてきた長寿人に救われたものの、記憶を失って有澄宅へ。

影のように追って来た黒百合は、マーシャが幸福であるのを見て朝日ヶ森に潜伏しているが、彼女には知れない所で、彼女を追ってきた長寿人たちが学苑にはいりこみ、マーシャの記憶の鍵を握りながら、時が来たら、それを教えると言って、マーシャに帝王学をしこむ。

長寿人たちが自分をつかまえようとしているのを知った黒百合は一時期姿を消すが、"呪縛"にかまっているので、再び帰ってきて、帰ろうとするマーシャを捕えて無理矢理心中しようとする。

後、マーシャを追って名を変え、姿を変えてダレムアスに戻った黒百合は、影のようにつきしたがいながら、追手を避け、マーシャを護り、良心と呪縛の板バサミになりながら、遂にマーシャが記憶をとり戻した日に捕えられ、再び少女の姿でマーシャの前にひきだされる。

「さあ。おまえにどんな悲しみがあろうと、おまえは掟を破った。おまえの為した事のために一つの国、一つの世界の営みが変わってしまったのだ。皇女の御名において、今、裁きを受けるがいい！」

「争魔の力から身を避ける術(すべ)は知っているだろうに、争魔と戦うべき身でありながら、そのさそいに甘んじるとは何ごとか！」

コメント



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2016年8月11日17:49

...ちなみに、つまり「灰色姫」って...||||w（^■^；）w||||...★

リーシェンソルトの、あの「すすき頭」の...「幼名」...??

★...<（～～；）>...★

黒百合さんてば、やっぱり、「狼さん」なのか...ツ★www

[『アーシュラ・グイド……哀しみの姫……』 \(中学2～3年頃の設定ノート☆\)](#) 2006年7月24日 [連載 \(2周目・大地世界物語\)](#)

灰色の髪、灰色の瞳、実際には銀髪である。

ダレムアトではない。

母は美しさのゆえに無理な結婚を強いられ、
病弱なところを王の正妻にいびられて、
狂人同然になって塔から落ちて死亡。

哀しさに身をゆだねて一人静かに暮らしている時、
ふびんがってよってきた兄が恋に落ち、
禁を犯させた。

彼女にとって罪とは美しく生まれついたことであり、
「消せない悲哀」の念が不思議の原動力になっている。

(……昏～い横顔の……、イメージイラストあり。)

ある時は、わたしのために
一つの国が滅びました。

愛というものはどうしてか、
こんなに哀しいものなのでしょう。

.....いたいた.....!!

変だと思ったよ。すっかり黒百合様が悪役になってるんだもん.....!!

皇女誘拐の真犯人は、コイツだコイツ!! (¯^¯;)

設定メモ) 』 (たぶん高一の夏休み前?)

[『 \(読書予定リストの裏面の設定メモ\) 』 \(たぶん高一の夏休み前?\)](#)

2006年7月14日 [連載 \(2周目・大地世界物語\)](#)

前宇宙の女王 インディゴアリーナヤ
アルマリオン

+++++

九尾狐

戦士 (時の旅人) アルマリオン

> 狂戦士《黒百合》, 前宇宙の女王インディゴアリーナヤ

狂女レフイヤ, アーナーラサ, 《樹》の巫女

アーシュラ・グイド, 《哀しみの姫》,

扉の司, 《狐女》, (大地界の精霊)
, 大地の精

ひみつ日記

☆ ちなみに、読書 (予定) リスト ☆

更級日記	山月記	コモンセンス	蒼き狼
枕草子	デミアン	純粹理性批判	史記
源氏物語	月と六ペンス	孟子	
方丈記	楡家の人々		十八史略
平家物語	暗夜行路	論語	
徒然草	(詩集)		戦国策
奥の細道	神曲・デカメロン		
唐詩選	罪と罰		

.....う〜ん.....。

今にいたるも、半分以下しか読んでないような.....★ !(^◇^;)!

(キャラ設定)

(キャラ設定)

『黒き銀髪 月の女神レリナルディアム 』 (中学1年かな?)

『黒き銀髪 月の女神レリナルディアム 』 (中学1年かな?)

2006年7月9日 連載 (2周目・大地世界物語)

(※ まだ「漫画家になろう」と思っていた時期なので、
イメージイラスト (コンテ?) の、ようなもの☆

幼いマーライシャ皇女が大地世界を旅立つ時の、
泣き顔と、それを預かるレリナル神の余裕の顔。

たぶん、レリナルディアムはこれが初出かな?
銀髪美少女風 (若い!!) のはともかく、なんで
こんな「スケスケルック (死語)」なんだ.....?

? (^◇^;)?

2006年7月24日 [連載 \(2周目・大地世界物語\)](#)

灰色の髪、灰色の瞳、実際には銀髪である。

ダレムアトではない。

母は美しさのゆえに無理な結婚を強いられ、
病弱なところを王の正妻にいびられて、
狂人同然になって塔から落ちて死亡。

哀しさに身をゆだねて一人静かに暮らしている時、
ふびんがってよってきた兄が恋に落ち、
禁を犯させた。

彼女にとって罪とは美しく生まれついたことであり、
「消せない悲哀」の念が不思議の原動力になっている。

(……昏～い横顔の……、イメージイラストあり。)

ある時は、わたしのために
一つの国が滅びました。

愛というものはどうしてか、
こんなに哀しいものなのでしょう。

.....いたいた.....!!

変だと思ったよ。すっかり黒百合様が悪役になってるんだもん.....!!

皇女誘拐の真犯人は、コイツだコイツ!! (^ ^)

(リュシェイア・マリス) (銀狼)



あいかわらず謎の追跡行 (?) の、戦士黒百合。

(上右) あいかわらず謎の追跡行 (?) の、戦士黒百合。



(参照したければ資料)



<http://85358.diarynote.jp/201703092244412068/>

<http://85358.diarynote.jp/201703092010594928/>

[「星海統一」...かげの仕掛け人のみなさま☆彡](#)

2017年3月9日 [リステラス星圏史略 \(創作\) コメント \(1\)](#)

(借景資料集)

リステラス星圏史略
古資料ファイル
4 - 0 - X
- 苛怨樹魂 -
《灰色姫》と
戦士《黒百合》

<http://p.booklog.jp/book/107093>

著者：霧樹里守 & 土岐真扉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/107093>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/107093>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ